

拓水

題字は 県漁連三浦会長

6月号

No. 201

発行所

兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産改良普及協会
〒652

神戸市兵庫区新在家町123
発行人 三浦清太郎
TEL. 671-6685・681-6954

編集 拓水編集委員会
一部 10円

魚介類の流通正常化急げ

政府自からの手で魚の安全性立証を

ついに六月四日我々がこの一年間要請しつづけてきた「PCB汚染調査結果の発表に当たっては、被害救済対策を同時に明示せよ」を無視して何の対策もなしに唯調査結果のみが発表された。このため、全国各地に魚が暴落し、本県のごときは、汚染海域に全く関係のない漁獲物も大巾な暴落、或は販売不能の状態が続き、操業中止を余儀なくされて、漁民は重大な脅威にさらされ、このまま推移すれば業界は最悪の事態に突入する危機に直面している。

このことは我々漁民が、人の健康に与える魚は、一匹も水揚げせず処分に、健全な魚のみを消費者の食卓に供することを要請して、昨年五月PCB問題が提起されて以来再三、再四回、県に対しこの事を要請してきた。

①汚染ヘドロの除去
②消費者・国民に対し信頼のおける精密な汚染状態一、同等具体的な対策は明けない、今後の対策が今以上に心配される。

コンクリートで葬送

高砂・白浜沖のPCB汚染魚

漁民が生活の糧にしている魚を...無残である。去る六月八日、PCB汚染漁獲規制区域内で獲れた魚約四〇〇kg、PCB汚染発表以後三日分、高砂工場内の空地に待たせ、コンクリートミキサーによりセメント、砂、水と共にまぜられ、ビニール袋入りラム街の中へコンクリートづめされ、その上に約一〇cmの厚さのコンクリートを投入し、密閉された。これから後、五日間ここに待たせられ、約四〇〇トンの魚が上の中へ消えるという仕組であるが、汚染魚がこれで撲滅できるはずは



PCB汚染魚の処理作業

示も準備もされず唯調査結果緊急課題となった「市場に出ている魚介類は汚染されていない健全な魚であること」をあらゆる手段でPRし、消費者に正確な認識を普及徹底を図る。消費者の責任において実施し魚介類流通正常化を達成しなくてはならない。

兵庫県における赤潮情報

しゅう集通報体制整備

瀬戸内海における赤潮の発生は、年々長期化かつ広域化しつつあり、ついに昨年8月には、養殖はまに大被害をもたらしました。このことについては、皆さん、生々しい記憶がおありのことと思います。本県では、5月1日をもって赤潮対策本部(本部長 一谷副知事)を水産課内に設置し、赤潮による漁業被害防止の総合的な施策を推進していくこととなりました。

この対策の一環として、赤潮に関する情報のしゅう集通報体制の整備を図っていきます。これは左記のようない赤潮監視観測網を整備し、もって赤潮発生の際を的確に把握し、発生状況を的確に把握し、これを別図の情報網により漁業者に連絡するほか、定期的に発表しようとするものです。

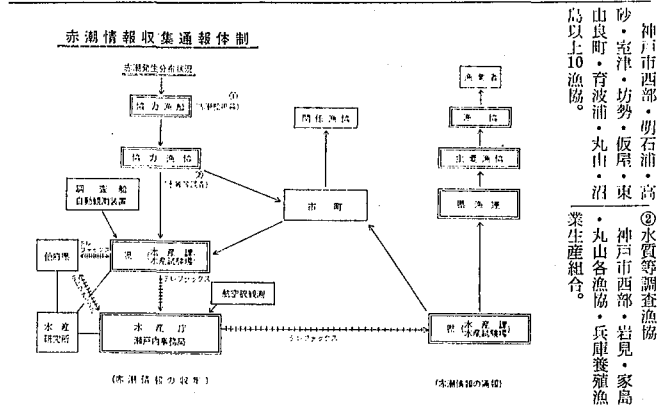
一、赤潮情報しゅう集体制
(一)赤潮監視漁船による観測

前年度の許可総数を限度として一度制限されているが、無制限にハマチ稚魚を採捕し、また養殖を行なうことはできないわけであり、したがって、この数年にわたって、頭を削ぎえられていた制限が、一部緩和されたこととは、ハマチ養殖を行なう者にとって大きな利益をもたらすものであること、言うまでもないことであり、言うまでもないことである。即ち、従来の三千万尾の枠に縛られていたために、実際の養殖尾数が公表できない関係から、養殖尾数は加入する場合には、実尾数(尾数を公表できるように

新方式も導入 今年のハマチ養殖

今年のハマチ稚魚供給調整は、従来の三千万尾という大枠にとらわれることなく、各府県における漁場管理から検討して適当と思われる数を、その県下における放流尾数にすることが認められました。

しかし、一方採捕の方は、冬回りの尾数の引き受けで前年度の許可総数を限度として一度制限されているが、無制限にハマチ稚魚を採捕し、また養殖を行なうことはできないわけであり、したがって、この数年にわたって、頭を削ぎえられていた制限が、一部緩和されたこととは、ハマチ養殖を行なう者にとって大きな利益をもたらすものであること、言うまでもないことである。即ち、従来の三千万尾の枠に縛られていたために、実際の養殖尾数が公表できない関係から、養殖尾数は加入する場合には、実尾数(尾数を公表できるように



魚類乾燥の冷風乾燥機

14時間で冷風完全乾燥 素晴らしい方式で業界をリード

藤木式魚類乾燥装置

乾燥品 イワシ、煮干、サバ、開干、イワシ丸干、タラ、サンマ、シシャモ、ニシン、珍味のり24時間、イカ30時間、コブ8時間 水イカ、味噌干、開き(25センチ物)7~8時間

(フジキ) 藤木産業株式会社
本社 松山市山越町1丁目272 電話0899 (22) 2311
営業所 松山市千舟町7丁目7 電話0899 (45) 3411

考えて育てる漁業

はまち養殖事業の

問題点と今年の指導項目

最近のはまち養殖は需要の増大により、その飼育技術が進歩し養殖形態も多角化の傾向を呈してきた。全国的には越冬魚を主体とした、沖合養殖業へと変わりつつある。

本県でも昨年度の越冬魚養殖尾数は約五〇万尾と、その増加は目ざましく、過密養殖化への傾向をたどっていたように思われる。しかし、養殖業の発展につれて、各種の目新しい疾病が頻発しつつある。

加ふるに、昨年度は播磨灘を中心とした海域での赤潮により、越冬魚を主体に大群への死事故が発生し、本県のはまち養殖業は未曾有の大被害を蒙った。

そこで、本年度のはまち増加に問題点があると思われ、養殖業もすでに開始されており、昨年の悲しい犠牲を十分に認識して、本年度の養殖には細心の注意を払う必要があると考えられる。

しかし、昨年発生した赤潮(ムカシウミドリムシ)が本年度もまた、発生することも十分に予測されるため、これ以上の被害の積み重ねのなきよう願いたいものである。

第1表 最近3カ年間のはまち養殖尾数の推移

年度	経営体数	当年度魚尾数(千尾)	越冬魚尾数(千尾)	越年魚尾数(千尾)
45	100 (28%)	100 (3,500)	100 (214.5)	
46	111 (31%)	78 (2,736)	168 (359.5)	
47	196 (55%)	122 (4,274)	250 (535.3)	

※ 組合員数は省略し代表のみを記載し1経営体とした。

最近三カ年間の本県では、はまち養殖業の推移は第一表のとおりである。昭和四十五年を一〇〇とし、その推移状況を見ると、経営体では四十六年一一一%、四十七年では一九六%と増加している。当才魚のはまち放養尾数では四十六年七八%と減少しているが、四十七年は一二三%と増加した。一方、越冬魚の放養尾数は四十六年に当才魚を減少させた反面、越冬魚は一六八%と増加し、四十七年は八%と増加し、四十七年はさらに二五〇%と急激な増加を示した。この昨年の越冬魚、当才魚の放養尾数の増減を試みる。

二、県下の類結節症による養殖はまちはい死尾数は、節症によるはまち死尾数は第一表に示したように、当初の放養尾数に対し、六・九% (約三〇万尾) が、い死しており、また、同時に死した越冬魚は、約四七% (約四〇万尾) の被害を蒙った。これらの被害率を、県全体として五%程度 (約二〇万尾) に減少させることが急務である。従って、このため水試では治療、予防試

第2表 兵庫県下の類結節症による養殖はまちはい死率

当年度はまち放養尾数	類結節症によるはい死率(千尾)	その他によるはい死率(千尾)	生残尾数(千尾)
100 (4,274)	6.9 (2,949)	3.7 (1,599)	89.4 (3819.6)

大きくしたと思われる。従って、現段階では、年間を通じての越冬魚の養殖は内海の環境条件に不向きであると判断される。

以上、被害率の高かった、類結節症、赤潮等については昨年度の検討を加えた。養殖事業にとっては、この大群への死事故は、企業体間の通過点である。要するべき問題である。(水試 片島)

病害対策指導は紙面の都合により次回に掲載します

明石市漁協婦人部連合会 普及徹底をはかる。

は、五月二十九日市民会館で総会を開き、明石市の予算、事業計画をきめた。また新会長に林崎の榎木つ子さん、副会長に西三見の増田寿子さんと東三見の新年度予算は総額で十三万六千円、事業計画の主なものは、

① 明石市農業改良普及所の生活改善普及員の指導をうけることに参加者一同興味をもつてその話をきいた。

年後はバスで神戸市にある猪屋の味付海苔工場を見学したのち六甲牧場を訪れた。参加人員は約六十名。

上手な予防対策を

養殖はまちはい死の類結節症について

はまち養殖漁業で、その病害事例中一番被害の大きいのは類結節症(別名細菌性類結節症)である。この病害について、三つ述べよう。

(一) 本症は水温が一七〜二五°Cの間に発病する。越冬魚のはまち魚が主である。この発病の魚は稀死する。発病の魚は稀死する。発病の魚は稀死する。

(二) 本症は、従来からのピンリオ症のように、濃霧、狂らん、旋回等の症状を示さず、前日まで健康が良かったものが翌日急に黒肝が悪くなる。そこで小細網の底を点検すると、死魚が見られることが、本症の特徴で、比較的発育の良好なものから罹病し易い。

(三) この症状のものを放置すれば、小細網全体に波及し、最終的には六〜七割まで死滅する。

(原因) 本症は細菌性疫病であるが、その感染経路は現在まで全く不明である。

(治療対策) 各種の抗菌剤で治療出来るが、サルファ剤が一番有効である。本症の場合は抗生物質を使用せず、サルファ剤で治療して頂きたい。

(予防対策) 本症は水温が一七〜二五°Cに発病する。ため、養魚場の水温が二五°Cを超えれば、サルファ剤を三日間連続的に予防投薬する。さらに二〜三日すればまた繰り返すこと

事業計画に

浜の美化運動など

明石市漁協婦人部連合会 普及徹底をはかる。

は、五月二十九日市民会館で総会を開き、明石市の予算、事業計画をきめた。また新会長に林崎の榎木つ子さん、副会長に西三見の増田寿子さんと東三見の新年度予算は総額で十三万六千円、事業計画の主なものは、

① 明石市農業改良普及所の生活改善普及員の指導をうけることに参加者一同興味をもつてその話をきいた。

年後はバスで神戸市にある猪屋の味付海苔工場を見学したのち六甲牧場を訪れた。参加人員は約六十名。

海上電機が皆様にご贈る新製品
 小型漁船からレジャーボートに友達が一人増えました
 これからの海には是非お供させて下さい
 フリッシュバイロッド
 Z-1・マークII
 中型、大型も各種取揃えています
海上電機株式会社
 神戸市生田区明石町32 電話 391-4301

が望ましく、予防の場合には投薬量も少なく済むから、経営の節減にもなる。

最近の本症の発病状況は全国的に罹病しているため、上手な予防対策をたててほしい。

現在、水試では昨年度からワクチン等の予防試験を奨励しているが、実用化までには至っていない(死亡の処置) 本症の罹病を確実にすれば内密にせず、水温(連絡)を上げて頂きたい。付託の業者の方にも連絡することが必要である。そして、治療予防対策を、早急に講ずると共に、い死魚は小細網の外等へ棄てず、陸へ持ち帰り、埋めるか焼却処理を必ず実行してほしい。(水試 片島)

实用新案登録(903180号) 兵庫県立工業試験場指導作品

特殊ホーロー加工

ニュー・アラトツプ

— 特 長 —

1. 煙と生臭い匂いが出ない焼物器
2. 副熱熱で焼くので、裏返へさずに「コゲメ」がつかず味は最高
3. 早く焼けるので燃料費は僅ですむ、しかも栄養面を損じない
4. 魚・肉・餅・野菜等を同時に焼いても匂いは移らない
5. 油が飛びちらないので、清潔で後始末がよい
6. モダンで一寸した「オープン」代りです

製造元 兵庫県水之上郡山南町 下谷金崎工業株式会社

養魚の調餌と造粒は

コウベヒラガのミートチヨッパーで

養魚用ミートチヨッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。

(脚一報次第カタログ贈呈いたします)

ミートチヨッパーとプレート、ナイフの専門工場

株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8
 TEL 代表神戸(078)62-1527

5月の漁況と海況 (内海側)

●海況

7~8日の播磨灘における海洋観測結果によると北部では表・中層14.5°C~15.0°C、底層13.0°C~13.5°Cで平年より0.5°C内外高くなっている。東部では各層共14.0°C台で0.5°C~1.0°C高目、中部では表層15.0°C内外高目、1.0°C~1.5°Cと高目となっているが、家島群島南部海域で底層12.5°C内外の低水温域があり、中層と表層に1.0°C内外低目となっており、総論西部前線海域は各層共14.7°C内外ではほぼ平年に経過している。また15日の大阪~高知北端では各層共16.2°Cで1.0°C~1.5°C高目、西南部では16.5°C~17.0°Cで0.5°C~1.0°C高目をそれぞれ示しているが、前月示した大田高目(±2.0°C~3.0°C)は平年より1.0°C低目に戻りつつあるが、播磨灘、大阪湾と示した大田高水温分布(±2.0°C~3.0°C)とは逆に本月は東・中部の表・中層域でかなりの低水温分布となっているが、東部(和歌山県側)の底層域に紀南分枝流による高水温域があり平年比較で1.2°C高目を示している。東部では表・中層17.0°C~17.5°Cで-1.0°C内外、西部(徳島県側)では各層共16.0°C~16.5°Cではほぼ平年に経過している。

●漁況(概況)

前月より話梅を望んでいた岩屋地先漁場でのイカナゴ船曳網、込網は23日に終漁した反面、明石、前月、瀬戸、瀬戸湾周辺漁場では18日より船曳網の漁業が開始された。また播磨灘中・東部ではサワラ流し網漁、鴨川湾周辺ではタイ五筒網漁がそれぞれ上旬から本格的な採集に入り、更に本年は大阪湾西部海域においてカタクチイワシ対象の船曳網漁が25日から開始された。一方各地の小型底層網漁はエビ類、ハリイカなどの漁期に入り急速に上向きを見せるなど本格的な漁業シーズンを迎え各地で活況を呈している。

●各地

(註・以下は1日1隻当りの平均漁獲量、@は1キロ当りの単価円、何度は採集回数)

明石浦 小型底層網メイトカレイ9キロ@2,150、小1,250、ハリイカ7キロ@700、エビ10キロ@650、アナゴ5キロ@550、タコ5キロ@650、40隻。アナゴメ23キロ@650、カサゴ17キロ@1,000、小100、15隻。各一本釣りメバル5キロ@1,000、スズキ5キロ@1,750、アイナメ10キロ@850、同時40隻、ブチン漕タコ5キロ@650、イシカレイ10キロ@1,000、オコゼ6キロ@550、10隻。イカナゴ船曳網5,000キロ@41.7%。

岩屋 イカナゴ船曳網(上旬)6,000キロ@32。(中旬)3,000キロ@35~40、15隻。イカナゴ込網(大潮時)8,000~10,000キロ、(小潮時)3,000~4,000キロ、2隻。カタクチイワシ船曳網1,000~1,500キロ@100、3隻。各一本釣りスズキ(まき餌釣)30~50キロ@1,000~1,500、4隻。スズキ(背)5キロ@1,500、カサゴメバル3キロ@950、アイナメ4キロ@1,050、同時40隻。各延縄カサゴ70~100尾、5隻。アナゴ30キロ@450、10隻。アコウ4キロ@1,500、2隻。エビ漕網大5キロ@1,100、中20キロ@450、小5キロ@120、ハリイカ7キロ@550、10隻。キヌ刺網(大潮時)35キロ、(小潮時)15キロ@750、10隻。ワカメ採取(干)10キロ@900、15隻。

由良 タイ漕網18キロ@2,500、5隻。小型底層網アナゴ3キロ@900、ハリイカ5キロ@700、シラサエビ10キロ@1,000、その他15キロ@300、50隻。各一本釣りタコ3~4キロ@2,600、40隻。アジ7キロ@700、サバ8キロ@250、40隻。タコ7キロ@800、30隻。各延縄ハモ30キロ@2,400、7隻。アナゴ7キロ@900、カサゴ12キロ@800、その他12キロ@700、8隻。キヌ刺網18キロ@800、10隻。磯刺網アマカイ7キロ@1,300、イカ5キロ@700、その他10キロ@700、26隻。各突棒アヒ10キロ@1,300、サザエ7キロ@500、8隻。テングサ170キロ@50、7隻。

沼島 小型底層網カワツ12キロ@1,200、中エビ10キロ@350、チヌ20キロ@650、ハリイカ3キロ@600、テナガダコ10キロ@140、42隻。各一本釣りヒラアジ22キロ@500、300、45隻。キヌ5キロ@850、5隻。エン25キロ@100、3隻。アナゴ延縄10キロ@450、2隻。磯刺網ハリイカ10キロ@570、チヌ15キロ@500、ハキ10キロ@250、サザエ15キロ@420、27隻。突棒サザエ15キロ@420、アヒ3キロ@1,100、タコ3キロ@550、6隻。

福良 エビ漕網シラサエビ5キロ@3,000、カワツ5キロ@1,200、小エビ10キロ@90、ウシノシタ2キロ@500、12隻。小型底層網アマカイ10キロ@500、ヒラメ2キロ@1,500、メイトカレイ5キロ@1,500、オコゼ3キロ@800、20隻。各一本釣りカサゴ、メバル25キロ@650、アジ30キロ@300、スズキ20キロ@1,100、同時32隻。磯刺網アマカイ12キロ@800、ペラ5キロ@500、キヌ5キロ@800、10隻。突棒アヒ3キロ@1,500、サザエ10キロ@600、5隻。ワカメ採取(干)50キロ、16隻。

丸山 タイ五筒網(上旬)50~80キロ(中旬)30~50キロ(下旬)15~25キロ@2,000~2,500、10隻。各延縄アナゴ15キロ@370、17隻。カサゴ25キロ@500、15隻。キヌ刺網55キロ@350、10隻。タコ産60キロ@650、8隻。

五色 サワラ流し網(上旬)10尾、@750~800(中旬)10~15尾、@700~750(下旬)20尾内外@1,200、日廻り平均3,200g、70隻。

●本年のカタクチイワシ長期漁況予報

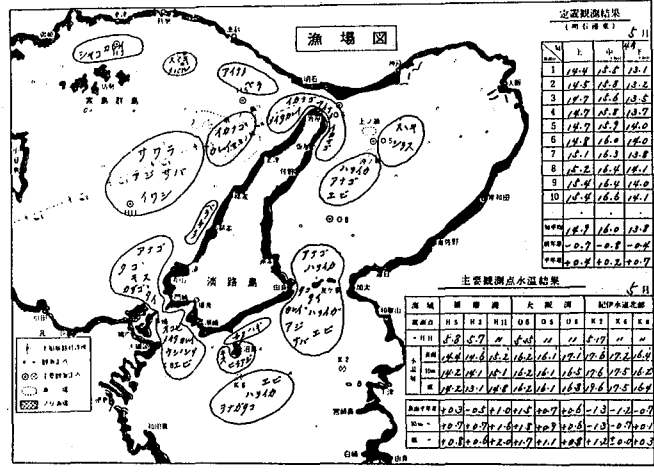
本年春季発生群のシラスについて……本年1~4月における太平洋南区および4~5月の紀伊水道周辺における産卵量の水準は比較的好漁を示していた近年のそれを大きく上回っている。また3月以降、黒潮主軸の接合と、紀南分枝流(北上勢力)の強勢とといった紀伊水域でのシラス漁にとって有利な環境条件がみられている。これらのことから紀伊水道の春シラス漁は比較的好漁であった近年の水準を更に上回る(最も好漁であった昭和46年に匹敵する)だろう。春季の大阪湾では水温は平年より高目、塩分は湾口部で平年より高目に推移しているため、紀伊水道域からのシラスの入り込みは、平年よりやや早目となり、その量も平年をやや上回る見込み。

本年夏季発生群のシラスについて……播磨灘およびその周辺域では産卵初期における卵出現(卵の出現は例年より早く5月に出現し、その量も多い)からみて夏シラスは平年並かそれを上回る。

本年秋季発生群のシラスについて……播磨灘、大阪湾方面における近年の産卵水準は低目に推移していたが、昭和47年にはやや増加の兆を示し、これに由来する紀伊水道方面の秋シラス漁が好漁している。このようなことから本年8~9月における産卵状況の把握に留意する必要がある。

前年夏・秋発生群の中・大羽群について……大阪湾および播磨灘方面では前年夏・秋季の産卵量およびシラスが平年より多く、また越冬越冬条件もよかつたので、この方面の中・大羽資源量の水準は前年を上回るだろう。

本年春季発生群の中・大羽群について……大阪湾では紀伊水道域の春シラス漁からみて中・大羽漁は平年を上回るだろう。(水試、岩井) (南海西地区東部カタクチイワシ長期漁況予報会議より)



適切な技術管理で環境克服 育苗期のノリ網の干出管理について

ノリ浮流し漁場の採苗および育苗の技術はまだ確立されておらず、この間病害が毎年やまされまわっています。白クサレ症などの病害が経験されては、芽イタミ症、量(干)の変動による生理的な病変が、ますます増えつつあります。この環境要因の変動をどうしようもないこととしてあきらめず、適切な育苗管理技術によってこれを克服することを考える必要があるのではないのでしょうか。

ここでは、この育苗管理すなわちこの試験は水試技術の中で最も大切であるが中心となり、洲本農水水と考えられる、種網の干出(産課(舞、小西)東浦町水管理の問題について、四十産課(田村)浦添協(新早)に年度に実施した野外試験(播磨)の諸氏の協力でおこりに基づいて話を進め、なわねたもので。

育苗中の干出の影響試験について

方法：十月十七日から前開し、育苗を開始した。採苗の種網で、半ズボで一苗八日後から、各竹篋を一視野(×100)あたり一回あたり〇(無干出)一〇(五筒の芽付きでスサビ)二、三、四時間ずつ二日毎に一回陸上干出をするよう四尺網を用いて試験をおこした。芽付き種網を直ちに竹篋に移植し、直ちに育苗を開始した。このようにして、育苗期間を約一ヵ月と見なして、各干出時間別にも良かった。各干出時間別

全試験網を入庫し、二月に出庫して生産量品質などについても比較調査した。結果：採苗から育苗までの管理状況および環境要因の変動は、図一のようにである。育苗期間は約一ヵ月で、この間十回の干出をおこなった。水温は、二一・一七°Cまで変化したが、入庫時のノリ芽は、一時間干出区で二〇mm、二時間干出区で一八mm、三時間干出区で九mm、四時間干出区で六mmに生長し、芽付きはいずれも良かった。各干出時間別

図1 採苗および育苗期における干出試験例

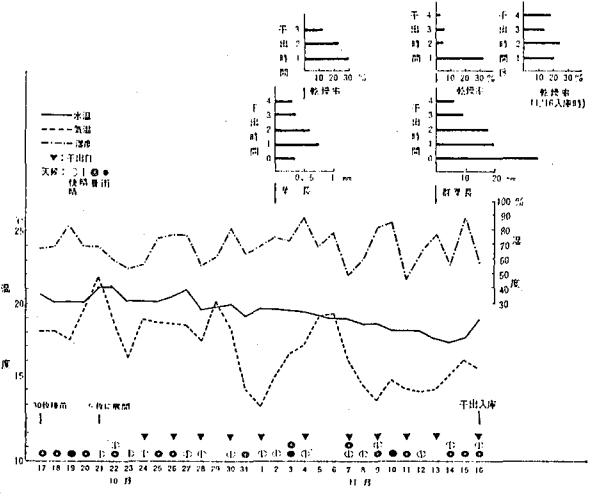


表1 浦ノリ試験網生産結果

採日	試験区	水生重量	共販階級	共単 販価	生産枚数	備考
2・5	1	148kg	黒特	17.39円	約2,600枚/5網	はな摘み
	2	139	〃	〃	約2,100枚/5網	
	4	106	〃	〃	〃	
2・26	1	145	黒特	15.59	約2,200枚/5網	はたき
	2	150	〃	〃	約2,300枚/5網	
	4	130	〃	〃	約2,000枚/5網	
3・22	1	145	黒特	15.59	約2,200枚/5網	はたき
	2	150	〃	〃	約2,300枚/5網	
4・17	1	145	黒特	15.59	約2,200枚/5網	はたき
	2	150	〃	〃	約2,300枚/5網	

りて約一〇〇枚の生産の他、三、四時間干出育苗があった。三、四時間干出育苗した網では、死細胞群が点在し、細かいチリメン状のしわが入った葉体がかかり乾ノリで約八〇〇枚の生産量なされた。しかし、この価格については、いずれも時間干出育苗した網では、差が認められなかった。そほとんども認められなかった。

以上の試験例から、三、四時間干出育苗したノリ芽の生長は、一、二時間干出から、浮流し育苗中に極端に遅れ傾向があることが、また健康育苗に干出の必要明らかになった。この原因は、性過大評価して、むやみに干出するからである。干出する時は、芽の障害や芽落ちの一芽の初期生長で異常が、原因となる可能性があるので注意しよう。浮流し漁場では、ノリ芽の大きき健康度を、気象・海況の状況などを考え、普通一、二時間育苗中の干出過多によるノリ芽体の生長抑制と異常、また冷害障害にある程度起

の網の乾燥の程度を含水率と比較すると、図一のようにその時の天候で大きく四時間干出であった。初期の傾向がみられた。アオの付変わっているが、干出二時間、微妙な芽の時期に、芽曲、若は、一、二時間干出区で、ねじれ、くびれなどの(は耳維持に近接に散在する程度)

芽の異常がよく観察され、二、三次芽の付着が置れる傾向が出た。また、三、四時間干出区では、初期の傾向がみられた。アオの付着は、一、二時間干出区で、ねじれ、くびれなどの(は耳維持に近接に散在する程度)

三、四時間干出ではほとんど認められなかった。なお、採苗から無干出で育苗した網は、産卵量などを比較するに、産卵量が多量に付着し、表一のとおりとなった。育苗終了時に三、四cmに伸びたノリ葉体が散在していた網で、一網あたり育苗重が約六〇g、乾ノリで約一〇〇枚の生産量なされた。

上記の種網を二月に出庫し、生産量などを比較するに、産卵量が多量に付着し、表一のとおりとなった。育苗終了時に三、四cmに伸びたノリ葉体が散在していた網で、一網あたり育苗重が約六〇g、乾ノリで約一〇〇枚の生産量なされた。

